

2年2組の国語の授業におじゃましました。

★単元の見通しを子どもたちと共有する★

「お手紙」の三時間目の学習でした。一時間目で感想を書き、二時間目では、一時間目で書いた感想をもとに、全体で学習計画をたてたそうです。今回は、物語の場面分けを行う時間でした。「場面は何のためにわけらんだっけ？」という吉川先生からの問いかけに、「ちゃんとお話を読むため」と自分なりの言葉で返答する子を見かけました。「先生が言っているからやる」のではなく、目的意識をもって取り組むことができるよう、計画をたてる段階から声をかけておられたのだと思います。単元の見通しを全体で共有することが、目的意識にもつながっているのだと感じました。

★めあてを達成するために★

本時のめあては「「お手紙」に出てくるとどうしよう人物や、ばしょをたしかめて、ばめん分けをしよう」でした。場面はどういうときに変わるのかを全体で確認するときに「どうぶつ園のじゅうい」の時と同じだということに気がついた子がいました。単元に関わらず、同じ流れで学習を進めることで、前の単元と結びつきやすいのかもしれませんが。個人で考える時間に入る際にも、吉川先生は「今日は何のために読むんやった？」と声をかけ、めあてに立ち返るきっかけを作っておられました。その結果、子どもたちはただ読むのではなく、目的意識をもって、鉛筆を片手に「どこで場面が変わるんだろう」とメモを書き込みながら読むことができました。めあてを達成するために必要な活動だと感じながら読むことは、とても有意義であると感じました。全体で確かめるときには、本文をテレビの画面に映し出し、今どの部分の話をしているのか、視覚的にもとらえやすくなるような工夫しておられました。

～まとめ～

9月の授業研での学びとして、単元の計画を子どもたちのはてなからたてることは、自ら学びに向かう力の育成につながるとありました。その後も実践を続けておられたので、子どもたちはより目的意識をもって学習を進めることができているように思いました。授業中のどの活動にも、必ず意味があるはずです。その意味を子どもたちと共有することで、学びは大きく深まるのではないかと感じました。次の時間からは、「最初の感想で出てきたはてなを解決する」ということをめあてに、読みを深めていくとのことでした。自分たちの見つけたはてなが、そのままめあてとなるので、子どもたちにとって、課題を自分事としてとらえやすくなるのではないかと思います。吉川先生、2年2組のみなさん、ありがとうございました。



ゴール	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	③お手紙がくるのをまっている間、二人はどんな気持ちだったろう。	②かえるくんがお手紙をとどけるのをかたむくんにたのんで、四日もけたのはなぜだろう。	①がまくんにだれも手紙を送らなかったのはなぜだろう。	ものがたりをふかく読んで、ふしぎなところを話し合おう。	「お手紙」に出てくるとどうしよう人物や、ばしょをたしかめて、ばめん分けをしよう。	学しゅうの見通しを立てよう。	「お手紙」を読んで、かんじたことを書こう。			
	③お手紙がくるのをまっている間、二人はどんな気持ちだったろう。	②かえるくんがお手紙をとどけるのをかたむくんにたのんで、四日もけたのはなぜだろう。	①がまくんにだれも手紙を送らなかったのはなぜだろう。	ものがたりをふかく読んで、ふしぎなところを話し合おう。	「お手紙」に出てくるとどうしよう人物や、ばしょをたしかめて、ばめん分けをしよう。	学しゅうの見通しを立てよう。	「お手紙」を読んで、かんじたことを書こう。			
	③お手紙がくるのをまっている間、二人はどんな気持ちだったろう。	②かえるくんがお手紙をとどけるのをかたむくんにたのんで、四日もけたのはなぜだろう。	①がまくんにだれも手紙を送らなかったのはなぜだろう。	ものがたりをふかく読んで、ふしぎなところを話し合おう。	「お手紙」に出てくるとどうしよう人物や、ばしょをたしかめて、ばめん分けをしよう。	学しゅうの見通しを立てよう。	「お手紙」を読んで、かんじたことを書こう。			

